

第2章 都市の課題と将来像

2 - 1 まちづくりの課題

(1) 常陸太田市の課題

現況調査及びアンケート調査により、次のような課題があげられます。

合併による市域拡大等に伴う都市構造の再編

平成16年12月に1市1町2村が合併し、福島県境まで接し、県内で最も面積の広い自治体となりました。都市計画区域外の面積は、都市計画区域の約5倍と大幅に増えたことから、都市計画区域においては市域全体への都市サービスを提供する機能を強化していく必要があり、商業サービスや行政サービスなどの拠点となる都市サービスのエリアを広げていく必要があります。

少子高齢化への対応

わが国では、世界でも例を見ないほどの急速な高齢化と少子化が進行しており、常陸太田市においても少子高齢化への対応は大きな課題となっています。

アンケート調査では目指すべき都市の将来像として「子供や高齢者が安心して暮らせるまち」が最も多くあげられ、少子高齢化対策に対する人々の関心の高さがうかがわれます。そのため、今後は少子高齢化に対応したまちづくりを進めていく必要があります。

自然環境の保全と生活の中での緑の活用

常陸太田市の中心市街地は、周辺を山地や農地に囲まれており、豊かな自然環境が残されています。将来において豊かな生活環境を形成するためにも、こうした自然環境の保全を図るとともに、市街地内での緑化を進めていく必要があります。

都市基盤施設の整備

道路や公園などの都市基盤施設に関しては、近隣市町村と結ぶ幹線道路などの整備が進められています。しかし市街地内の生活道路や歩道の整備、比較的規模の大きな公園の整備などは遅れていることから、安全で快適な生活環境を実現する上で、都市基盤施設の計画的な整備を進める必要があります。

また、国の三位一体の改革や全国的な人口減少、社会保障費の増加等を背景に、常陸太田市の財政状況も厳しさを増しているため、都市基盤施設整備においても社会資産の既存ストックの活用を推進していく必要があります。

産業（買い物・働く場等）の振興

住宅地の規模と比較して、買い物をする場や働く場が不足しており、アンケート調査でも、特に常陸太田市の未来を担う中高生が問題意識を持っています。

まちに活力を与え、若い人が将来の常陸太田市で安心して暮らしていくためには、商業・業務などの産業振興をより一層図る必要があります。

観光・レクリエーション機能の充実

成熟社会を迎え、個人の自由時間の増大により、観光・レクリエーション需要が高まり、スポーツやレクリエーションを、気軽に楽しむことのできる環境づくりが求められています。

また、常陸太田市は歴史的な建造物が数多く残されている観光地として知られており、これからも多くの観光客が訪れる個性的なまちづくりを進めていく必要があります。

（２）全国的なまちづくりの課題

近年、全国的にまちづくりの課題となっている項目を次にまとめます。

人口減少時代のまちづくり

国立社会保障・人口問題研究所が平成 18 年 12 月に発表した人口推計によると、我が国の人口は平成 18 年には概ねピークを迎え、その後は長期の減少過程に入ると予測されています。

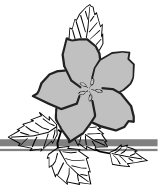
今後は大きな事業による都市の拡大を目指すのではなく、今ある公共施設等を生かしたコンパクトで効率的なまちづくりが求められています。

多様なライフスタイルへの対応

今後我が国は、人口減少を背景に経済成長は緩やかになり、国民の価値観やライフスタイルはより多様化しております。社会が成熟するなかで、量より質が優先する社会の到来とも言えます。こうした中で、日常の生活環境についても個性的で質の高い居住環境が求められています。

車社会の進展による移動の広域化

車社会の進展により、人の流れは中心市街地から、郊外の大規模集客施設に移ってきています。また同時に、個人の行動範囲はより広域化しており、都市間交通が増加してきています。買い物をするのに良い場所や、お気に入りのレクリエーションの場があれば、車である程度の距離なら移動して利用するという行動形態が進んでおり、特に若い世代にその傾向が見られます。



防犯・防災意識の高まり

我が国では阪神・淡路大震災を契機に、大地震を想定した防災対策への関心が高まっています。特に大地震対策は、コミュニティを含めたまち全体で対応する必要があるため、様々な側面からの検討が必要です。

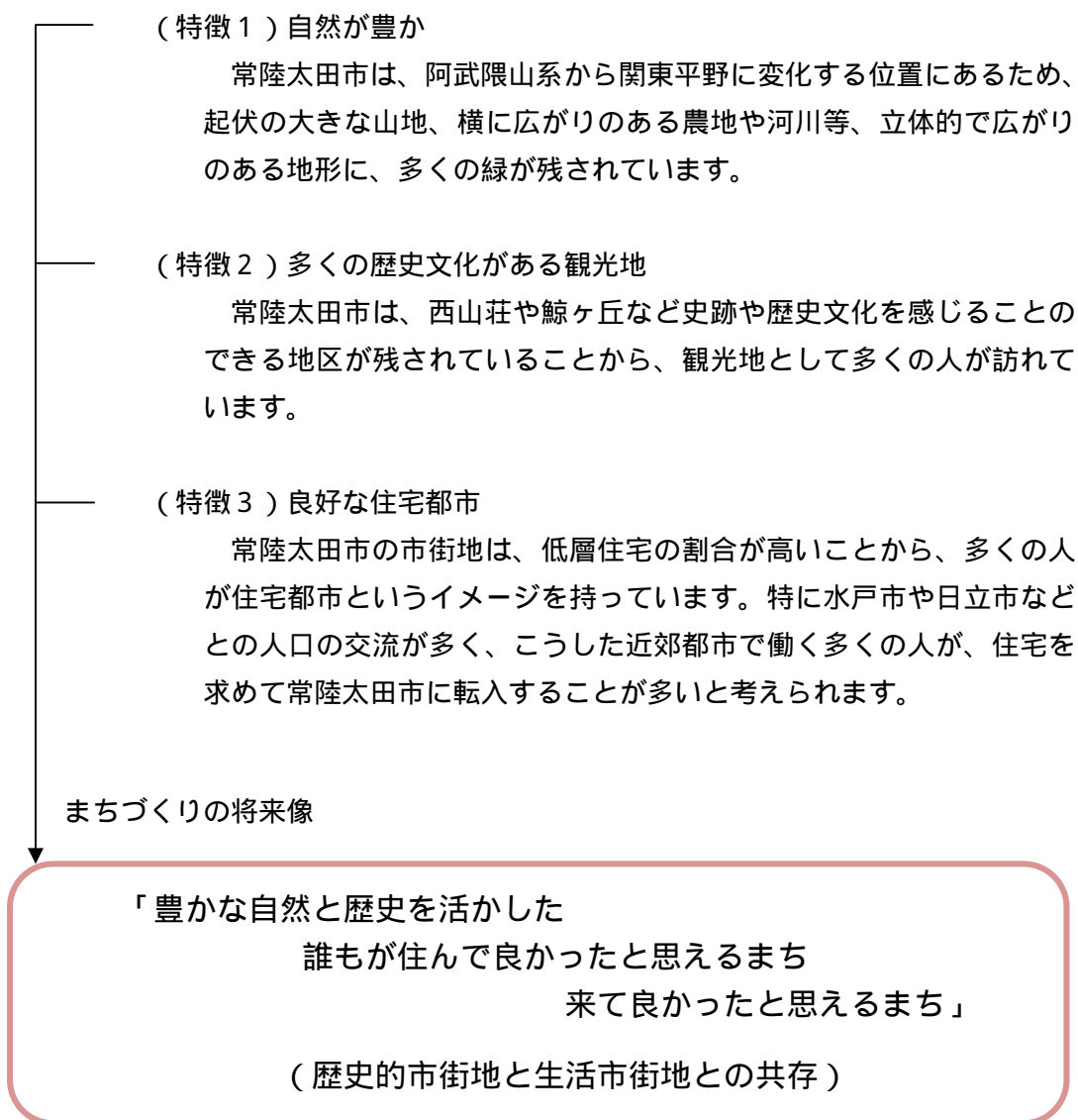
また、近年犯罪件数が増加しており、子供や高齢者をねらった犯罪も少なくありません。そのため、まちづくりの面からも対応が必要とされています。

市民参加の進展

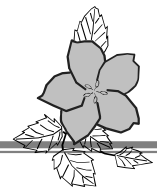
近年、地方分権や質の高い居住環境が求められていることなどから、まちづくりへの市民参加が進められています。常陸太田市でも、これまで中心市街地等で市民参加が行われてきましたが、今後様々な参加方策を検討しながら、市民自らが参加するまちづくりへと移行していく必要があります。

2 - 2 まちづくりの将来像

常陸太田市の主な長所・特徴としてあげられるのは、自然が豊かであること、多くの歴史文化がある観光地であること、良好な住宅都市であることです。そこでまちづくりの将来像は、自然や歴史文化を活用したより質の高い居住環境を提供し、その中で住民同士、または来訪者との交流により豊かな生活を実現することを目指す「豊かな自然と歴史を活かした 誰もが住んで良かったと思えるまち 来て良かったと思えるまち」とします。



これからのまちづくりは、大きな事業により都市構造を変えるような手法ではなく、既存の資産活用に重点を置き、生活空間の質の向上を目指したまちづくりが必要とされています。



そのため、様々な立場で多くの人が積極的にまちづくりに参加し、自らのまちを育てていく「市民参加」が必要となります。今後とも市民参加のまちづくりを進めていきます。

2 - 3 まちづくりの目標

まちづくりの将来像をもとに、まちづくりの目標として次の4つをあげます。

都市機能向上や快適性の向上を目指した市街地のまちづくり

合併により拡大した市域に対応したサービスを提供するため、また、人口減少時代においても必要な交流人口を広域的に集めるため、広域幹線網の国道349号バイパスの沿道を広域的な商業サービスや行政サービスなど、都市サービスの拠点として位置づけます。

鯨ヶ丘は歴史・伝統のある古くからの市街地として個性ある景観を重視し、近隣住民から県外からの観光客までの利用を想定した観光・交流の拠点として位置づけます。

住宅地は、中心市街地を中心に都市として都市機能を計画的に配置することによる様々なサービスを受けられる拠点として人口増加のための受け皿とします。

幹線道路網については長期未着手となっている路線の見直しなどを行い、幹線道路網の再編と整備の促進を図ります。

《国道349号バイパス沿道の都市サービス拠点の拡充》

《鯨ヶ丘地区の魅力の向上》

《住宅地の計画的な配置》

《幹線道路網の再編》

楽しい子育て、豊かな老後のまちづくり

あらゆる世代が社会参加を通し、生き甲斐を見いだせるようなまちを目指します。そのためにはまず都市空間がすべての人にとって、安心して、使いやすいものであること、いわゆるユニバーサルデザインに基づいたものであることが必要です。「茨城県ひとにやさしいまちづくり条例」を考慮して、すべての人が等しく社会参加できるように環境の整備を進めていきます。

今後、少子高齢社会に対応し、子供の遊び場の確保、交通安全性の向上などにより、子供を育てる環境の向上を目指すとともに、歴史を踏まえたまちづくりや生涯学習を推進することで、生き甲斐を持った第二の人生を送れるまちづくりを進めます。

《ユニバーサルデザインを理念としたまちづくり》

《子育て環境の向上》

《歴史文化を大切にしまちづくり》

《生活を支え合うコミュニティの醸成・生涯学習の推進》

自然と共に生きるまちづくり

常陸太田市は豊かな自然環境に恵まれ、市民はそれを誇りにしています。こうした自然環境を保全し、後世に残していく必要があります。また、質の高い居住環境を形成するために、公園緑地や親水空間などを通して、自然環境を生活空間の一部として活用していきます。

《自然環境の保全》

《市街地内での緑地空間の拡大》

人が行き交う交流のまちづくり

常陸太田市は、県北地域内において交通利便性の高い位置にあります。今後、県北地域の交流拠点として、商業的魅力の向上や働く場の提供、都市・農村の交流を行っていきます。整備の遅れている機能については、広域的な交流をもとに周辺都市との連携・機能分担に努めます。

また、常陸太田の歴史と文化を感じる街なみづくりや、観光地やレクリエーション施設の機能を高めることで、多くの人が集まる都市を目指します。

《幹線道路の整備》

《産業の振興（商業、業務施設の誘致等）》

《都市・農村の交流》

《歴史や文化を感じる街なみづくり》

《観光・レクリエーション施設の整備、誘致》

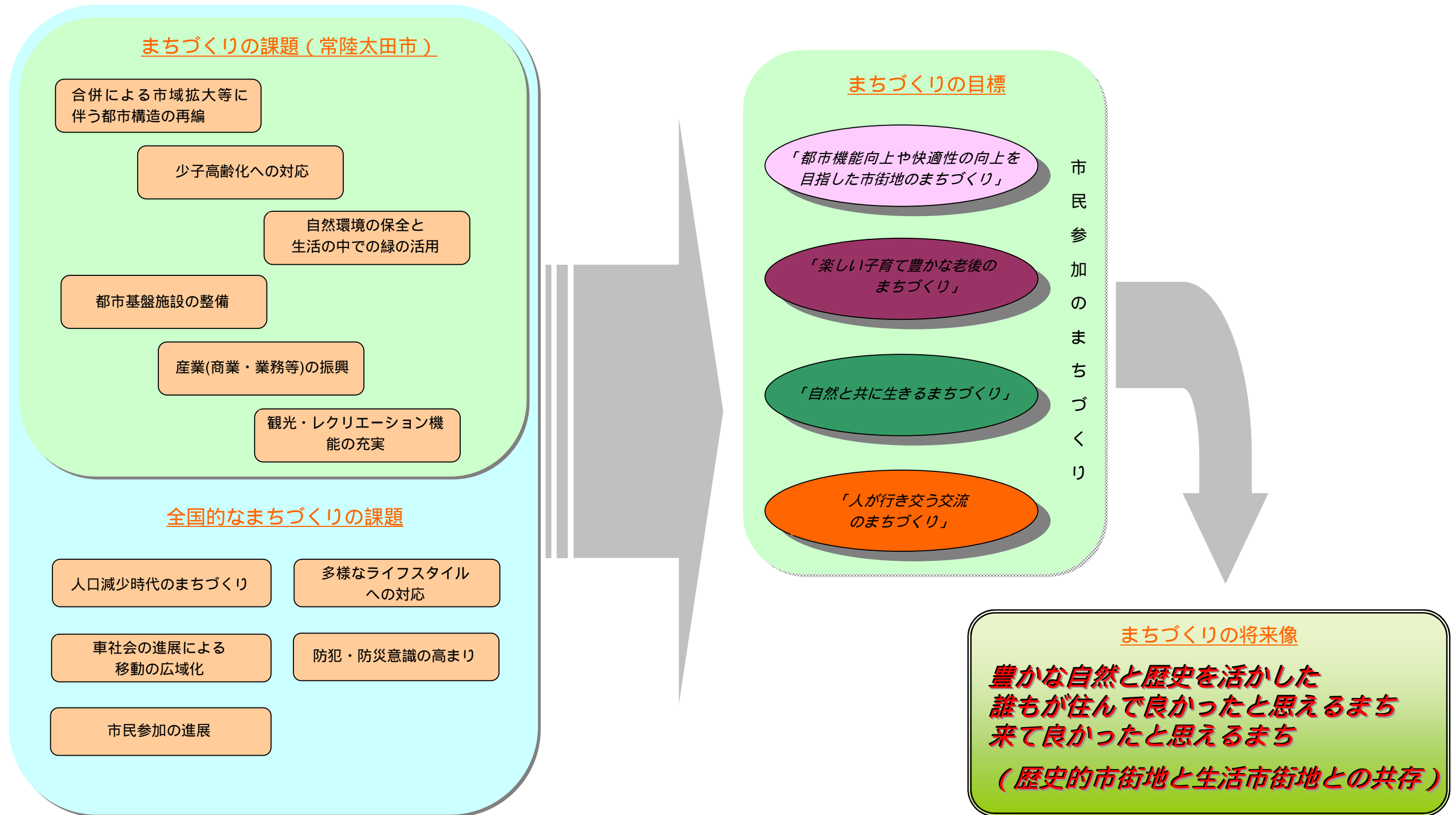
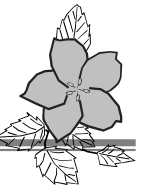
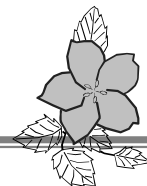


図 2-1 まちづくりの将来像



2 - 4 将来の都市構造

常陸太田市（都市計画区域内）の地形は、大きくは北部山間地と南部平坦地に二区分され、その間で中心的な都市的土地利用が営まれています。また市街地から放射状に延びる都市軸上に、近年、住宅地や工業団地などの開発が進んできています。将来においても、現在の都市構造を基本的に維持していきます。

山地と農地・集落地は、主に自然環境の保全を行いながら、集落地の居住環境の向上を図る地区とします。また、住宅団地や工業団地については、現在の良好な居住環境、生産環境の保全・維持に努めます。

また、現在の都市計画区域は地域によって特色があり、まちづくりの上ではその特徴を生かしていく必要があります。本章では、人の集まる「拠点」、まちをつなぐ「軸」についてそのあり方を検討するとともに、地域ごとの特徴について検討します。

（１）特色ある「拠点」の形成

【駅周辺地区】

駅周辺地区は、JR 常陸太田駅があり、幹線道路が交差する交通の要衝です。今後の高齢社会への対応や観光地としての振興を図るため、公共交通機関は重要な役割を担うこととなります。しかし現在は、国道が不規則に交差している交差点であることにより、交通渋滞の発生が多くなっています。

そのため駅周辺地区には、交差点形状の改良や安全でわかりやすい歩行空間の形成、バスやタクシー、自転車、自家用車などを含めた交通結節機能の高度化などが図られます。さらに、市内外から人が集まる交流拠点、市内周遊の出発点として、交流施設や観光案内も含めた情報発信機能等の強化を推進すると共に、それら施設整備においてはユニバーサルデザインを導入します。

土地利用面から見ると、駅周辺地区としての商業・業務施設をいかに集積するかという課題を抱えています。

駅周辺地区は市の玄関口として、公共交通の利便性を向上させるとともに、商業・業務、観光機能の充実を図るため、市のシンボリックな地区として整備を進めます。



【鯨ヶ丘地区】

鯨ヶ丘は、江戸時代から昭和初期にかけて棚倉街道の商業の集積地として繁栄し、現在もその名残りの土蔵や歴史的建築物、歴史的景観などが残されています。

本地区は、これら独特の歴史や地形を生かした落ち着いた雰囲気のある街なみを活かした観光資源として、地元の人々や来訪者などが気軽に立ち寄れる憩いの場として、さらに近隣型の気軽に利用できるカフェ等がある商業地、安心して暮らせる生活空間として地区形成を図っていきます。



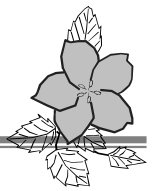
【国道 349 号沿道地区】

国道 349 号沿いの市役所から北側部分には、大型の商業施設が立地しており、その周辺は面的整備が行われて整った住宅地となっています。

本地区は、市域拡大に伴う都市サービスの向上を図る地区として、大型商業施設や工場、研究施設などの計画的な立地誘導を行い、周辺環境と調和のとれた地区形成を図ります。

国道 349 号沿いの市役所から南側部分には、比較的高密度に住宅・商業、公共施設等が立地しており、一般住宅や共同住宅と公共施設等が調和する地区形成を図ります。





【歴史拠点地区】

市の西部には西山荘や佐竹寺等の史跡や西山公園などが点在しており、道路・ハイキングコースの整備も進められています。

本地区は常陸太田市の代表的な観光地として、回遊性の確保や利便性の向上を図ります。



【長期的歴史拠点検討地区】

鯨ヶ丘地区北側の若宮八幡宮、太田小学校、太田第一高校周辺は、かつて舞鶴城が築城されていた地区であり、市の歴史上重要な地区となっています。

本地区は、市の歴史を象徴する地区として、舞鶴城跡地という歴史性を感じさせるようなまちづくり、施設整備などを長期的に検討していきます。

【レクリエーション拠点地区】

自然休養村周辺には豊かな自然環境の中にマウンテンバイクトレイル、観光ぶどう園、寺社があり、近隣にはゴルフ場もあります。

将来的には国道 293 号常陸太田東バイパスが整備され交通利便性が向上するため、公園整備やレクリエーション施設の誘致等を進め、レクリエーション拠点として位置づけていきます。

【瑞竜山墓所周辺地区】

水戸徳川家瑞竜山墓所のある地区です。歴史文化資産としての保全活用を図っていきます。

【国道 349 号久慈川周辺地区】

国道 349 号で南側から常陸太田市域に入ると、河川・田園風景、山地景観等が先ず目に入る特徴的な景観を形成しています。今後、こうした特徴的な景観の保全を図るために農地や樹林地の保全、緑化等を進めます。

【梵天山地区】

梵天山には、茨城県第2の規模を持つ前方後円墳である梵天山古墳があり、そのまわりには10数基の古墳群、60数基の横穴墳（島の百穴）もあります。現在、県の史跡指定を受け、茨城百景にも選ばれていることから、常陸太田市の重要な史跡としてその保全と活用を図ります。



【幡山古墳群周辺地区】

幡山古墳群周辺には、長幡部神社、阿弥陀仏と三十三石仏、森東貝塚等の史跡があります。本地区は歩行空間を確保することなどにより、まつりの道と併せて緑と歴史の感じられる空間づくりを進めます。

（2）特色ある「軸」の形成

【国道349号バイパス沿道・国道293号常陸太田東バイパス沿道】

国道349号バイパスと国道293号常陸太田東バイパスは、常陸太田市の骨格を形成する主要幹線道路であり、沿道に田園風景が広がる地区のほか、特に国道349号バイパス沿道の一部の区間には、本市の広域的商業業務拠点として既存の商業や、隣接する田園の景観と調和するような拠点作りを図る地区があります。国道349号バイパスは常陸太田市を南北に貫く道路であるとともに、主に水戸市方面からの入り口でもあります。また国道293号常陸太田東バイパスは、常陸太田市街地と大森町等の市街地をつなぐとともに、常磐自動車道や日立市方面からの入り口ともなります。

そのためこれら2路線の沿道は景観誘導の重点地区として、地元住民、企業等の協力を得ながら特色のある景観形成を図ります。

【まつりの道の形成】

県道和田上河合線等は、常陸太田市の重要な文化の一つである磯出大祭礼のまつりの際に利用される道です。一部区間において歴史や文化を感じられる散策道として活用を図ります。

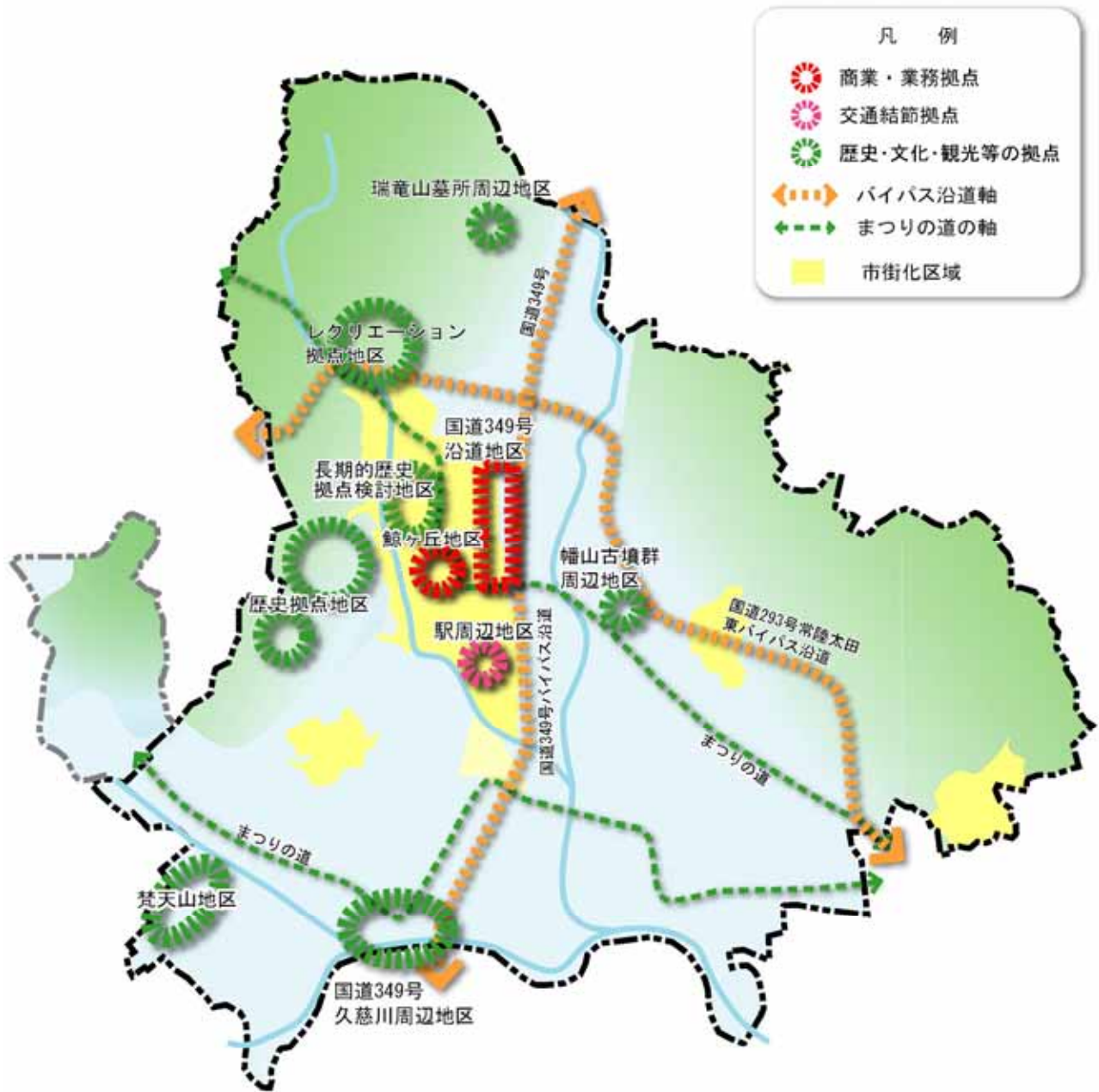
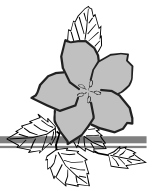


図 2-2 常陸太田市都市計画区域の都市構造図

(3) 特色ある「地域」の形成

調査対象地域をおおむね次の5つの地域に分け、それぞれの地域において特徴のある地域づくりを進めます。

中央部	<p>鉄道駅、鯨ヶ丘地区等を中心とした常陸太田市の市街地及びその周辺です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 商業・業務施設が集積し、観光施設のある交流拠点です。 ・ 歴史ある市街地として、産業の振興とともに美しい街なみづくり、バリアフリーなどによる安心して暮らせるまちづくりが求められています。 <p>「緑・歴史を感じられる広域交流拠点の形成」</p>
北部	<p>市街地北側の丘陵部及びその周辺です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 丘陵部や河川沿岸に広がる美しい田園風景や、国見山を中心とした山並みが特徴となっています。巨峰ぶどうの生産が盛んであり、観光農園などによる活用が図られています。 ・ ゴルフ場、マウンテンバイクトレイル、ハイキングコース、自然休養村などのレクリエーション施設があります。 <p>「美しい田園風景の観光・レクリエーション拠点の形成」</p>
北東部	<p>はたそめ住宅地及びその周辺です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然環境の豊かさや街なみの美しさが評価されています。 ・ 幡山古墳群、長幡部神社など史跡があります。 <p>「緑が多く、利便性の高い居住環境の形成」</p>
東部	<p>常陸太田工業団地や大森町市街地等の周辺です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 常陸太田工業団地、大森町の工業地域があります。真弓ヶ丘ニュータウンや大森町に住宅市街地が点在しており、幹線道路沿道にも市街地が散在する傾向にあります。 ・ 日立市との連携が深い地域であるとともに、常磐自動車道のインターチェンジにも近接する地域です。 <p>「市街地の連携による質の高い業務・居住環境の形成」</p>
西部	<p>佐竹南台ニュータウンや佐竹寺等のある地域です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 佐竹寺等の寺社や山寺の晩鐘の碑など、史跡が多い地域です。 ・ 水戸市方面から JR 水郡線もしくは国道 349 号で常陸太田市に入ると、前面に大きく広がる農地や遠くに見える山地など、特徴的な景観が広がる地域です。 <p>「景観保全や観光地整備による水戸市方面からの入り口の形成」</p>
金砂郷地区	<p>準都市計画区域の指定がされた金砂郷地区の一部です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基盤となる国道 293 号、県道和田上河合線があり、小学校、中学校が立地しています。 ・ 農地転用による小規模な宅地開発により住宅が増え、人口も増加しています。 <p>「田園風景と調和した良好な居住環境の形成」</p>

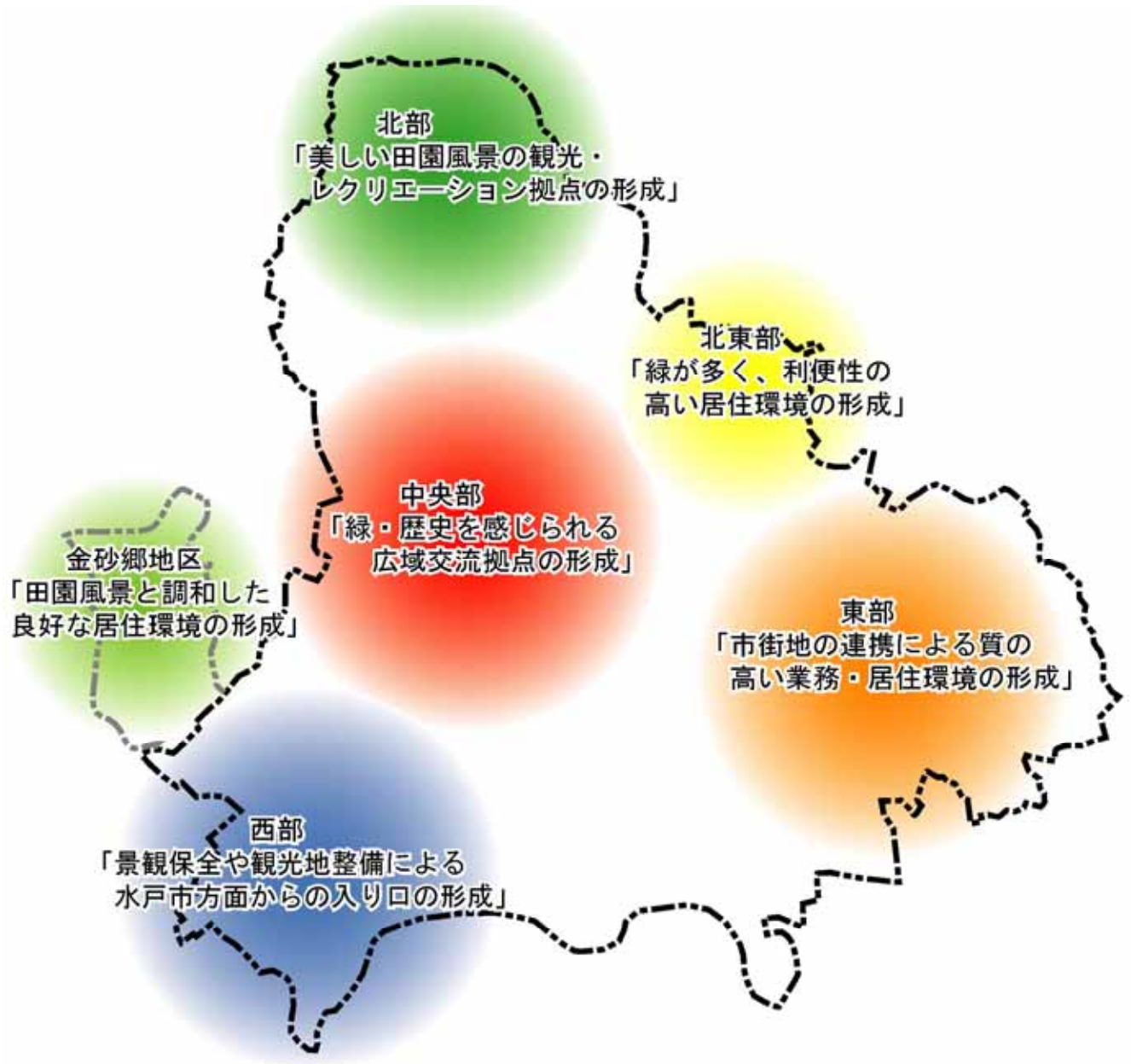
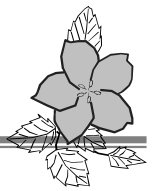


図 2-3 地域ごとの目標

2 - 5 人口・産業フレーム

(1) 人口フレーム

本マスタープランの対象区域（都市計画区域と準都市計画区域）について、目標年次である平成 40 年の人口を推計します。推計方法は次のとおりです。

- ・平成 23 年、平成 28 年の市人口は、本市の第 5 次総合計画基本構想で設定された将来人口とします。
- ・平成 23 年、平成 28 年の対象区域人口は、将来の市人口に占める対象区域人口の割合を推計し、市将来人口に乗じて算出します。
- ・平成 40 年の対象区域人口は、現マスタープラン策定後に算出された「新茨城県総合計画 元氣いばらき戦略プランの県人口フレーム(H42 値)」、「県北臨海都市圏交通戦略策定調査における旧市域人口推計値(H42 値)」及び「国立社会保障・人口問題研究所推計による常陸太田市将来人口(H42 値)」を基に推計し、比較検討することで将来人口を設定します。

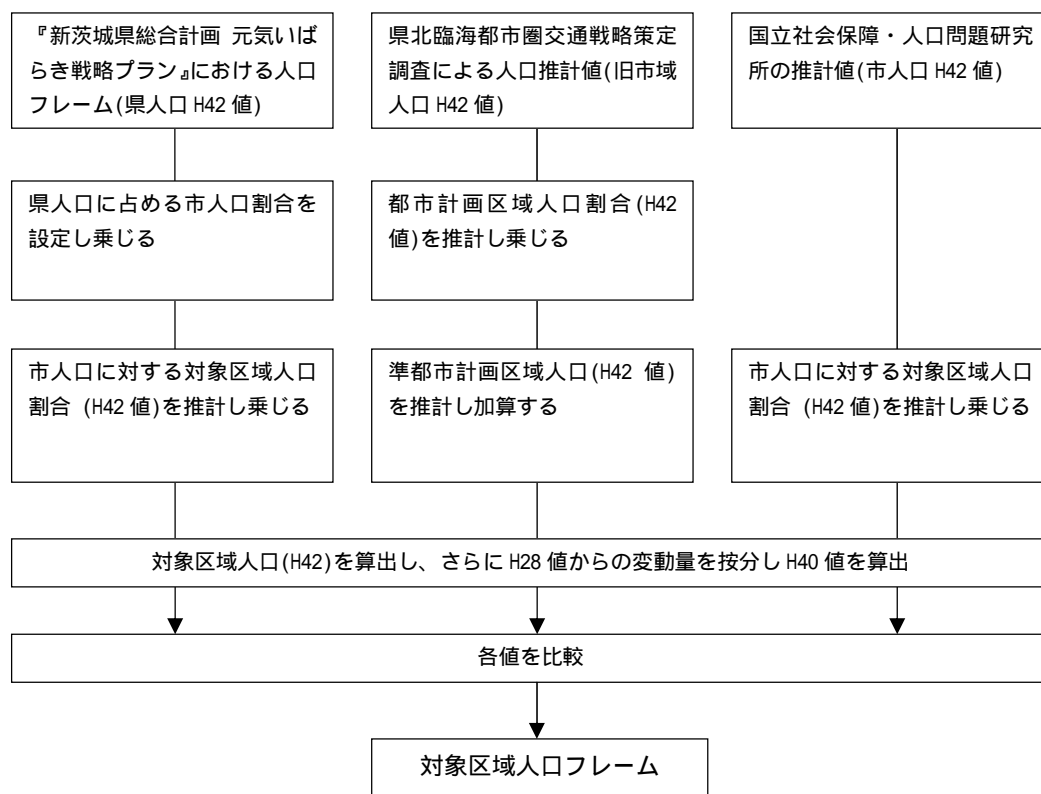
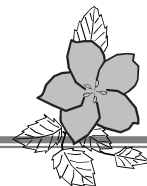


図 2-4 人口フレーム算定方法



将来の人口推計から、平成 40 年の常陸太田市の人口を 54,000 人、対象区域の人口を 37,000 人と設定します。また、市人口に対する市街化区域人口割合の将来推計を行い、平成 40 年の市街化区域人口を 15,600 人と設定します。

表 2-1 人口フレームの設定

	常陸太田市人口(A)	都市計画区域人口(B)	準都市計画区域人口(C)	対象区域人口(D)	市街化区域人口(E)	対象区域人口割合(F)	市街化区域人口割合(G)
昭和 60 年	36,628 ¹ (59,273)	33,300	2,120 ²	35,420	14,741	59.76%	24.87%
平成 2 年	37,624 ¹ (59,758)	34,016	2,272 ²	36,288	15,491	60.72%	25.92%
平成 7 年	39,545 ¹ (61,525)	35,990	2,611 ²	38,601	17,004	62.74%	27.64%
平成 12 年	39,680 ¹ (61,869)	36,288	3,384 ²	39,672	16,940	64.12%	27.38%
平成 17 年	59,802	35,431	3,628 ²	39,059	16,541	65.31%	27.66%
平成 23 年	57,500	35,200	3,800	39,000	16,200	67.83%	28.17%
平成 28 年	55,000	34,200	3,800	38,000	15,600	69.09%	28.36%
平成 40 年	54,000	33,100	3,900	37,000	15,600	68.52%	28.89%

1：上段は合併前の旧常陸太田市人口、下段は旧常陸太田市、旧金砂郷町、旧水府村、旧里美村の合計値

2：準都市計画区域人口：近似値として久米、薬谷、大里、大平の字別人口の合計値を用いる

各値の算出式：対象区域人口 $D = B + C$

対象区域人口割合 $F = D \div A (\%)$

市街化区域人口割合 $G = E \div A (\%)$

表 2-2 対象区域の人口フレーム

	対象区域人口	市街化区域人口
平成 23 年	39,000	16,200
平成 28 年	38,000	15,600
平成 40 年	37,000	15,600

(2) 産業フレーム

生産規模（工業出荷額、卸・小売販売額）

工業出荷額、及び卸・小売販売額の将来値は、過去の実績値データにデフレーター補正を行い、回帰分析により推計しました。

平成40年の工業出荷額は約718億円、卸・小売販売額は約325億円と推計されます。

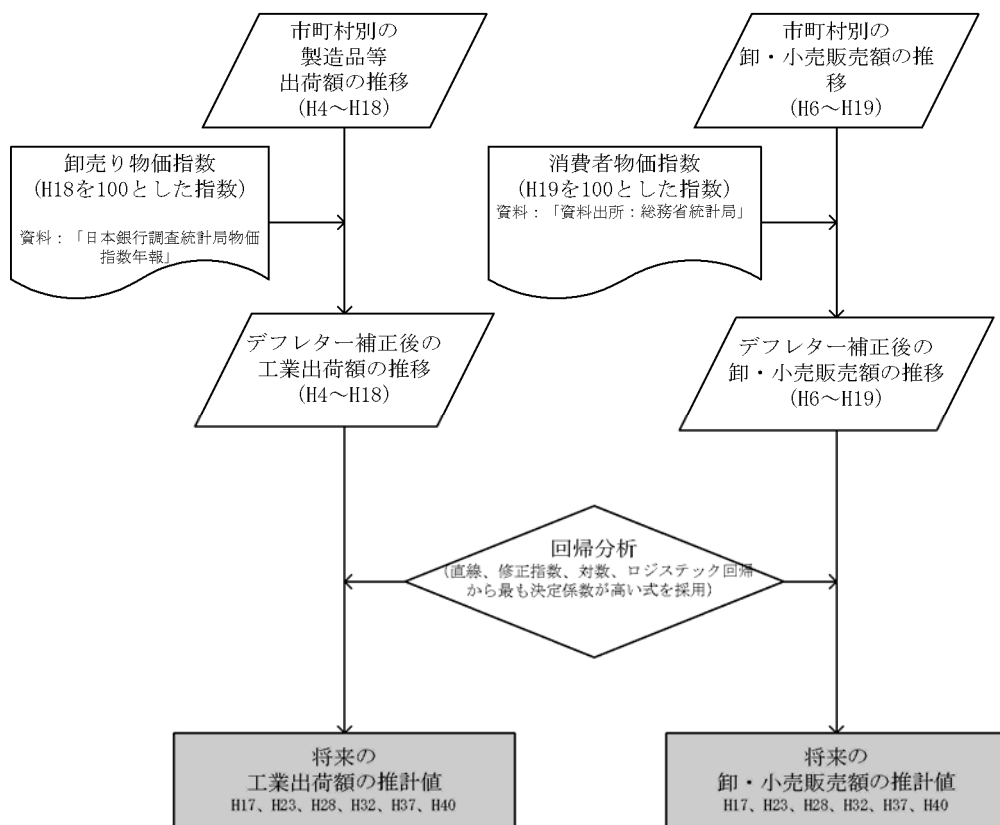
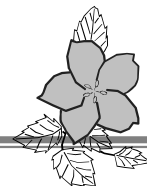


図2 - 5 生産規模（工業出荷額、卸・小売販売額）の推計フロー

表2 - 3 産業規模フレームの推計結果

区分		年次	基準年	平成28年 (2016年)	平成40年 (2028年)
		生産規模	工業出荷額	H18	581億円
卸・小売販売額	H19		503億円	約424億円	約325億円

資料：工業統計調査
商業統計調査



就業構造（産業別就業者数）

産業別の就業者数については、常陸太田市の将来人口推計結果と将来就業率、及び産業別就業人口の将来構成比を設定することで、将来の産業別就業者数を推計しました。

これにより、平成 40 年度の第 1 次産業就業者は約 1,600 人、第 2 次産業就業者は約 4,800 人、第 3 次産業就業者は約 15,200 人と推計されます。

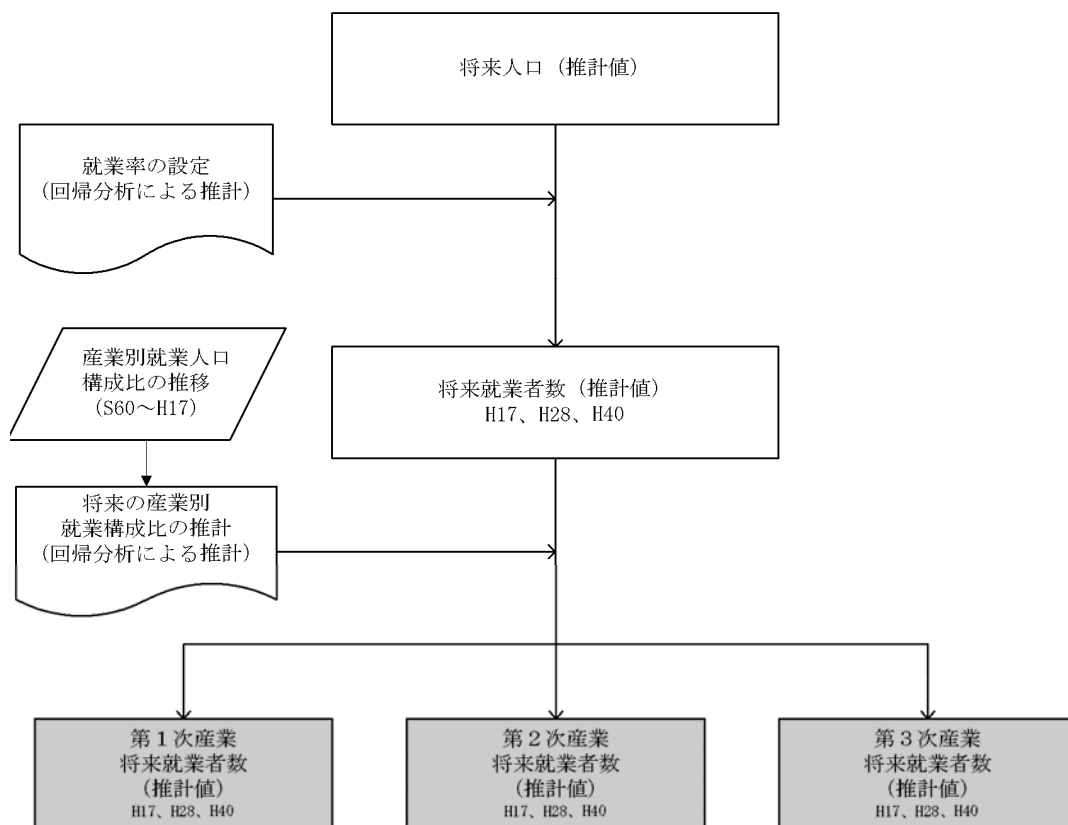


図 2 - 6 就業構造の推計フロー

表 2 - 4 産業規模フレームの推計結果

年次		平成 17 年(基準年) (2005 年)	平成 28 年 (2016 年)	平成 40 年 (2028 年)
就業構造	第 1 次産業	4,594 人(15.5%)	約 2,700 人(10.8%)	約 1,600 人(7.4%)
	第 2 次産業	8,439 人(28.5%)	約 6,500 人(25.9%)	約 4,800 人(22.2%)
	第 3 次産業	16,548 人(55.9%)	約 15,900 人(63.3%)	約 15,200 人(70.4%)
	合 計	29,581 人	約 25,100 人	約 21,600 人

資料：国勢調査